

【確定版】令和3年3月22日版

セッション企画案 「学会員を守るための研究公正の問題意識の共有化」

日本NPO学会理事・出口正之

研究活動は国境を超えて行われているため、近年、研究倫理及び研究公正については、グローバルスタンダードができ始めている。「学会」については、業績を上げようとするれば、いわゆるサラミ発表、論文、ハゲタカジャーナルなどが存在し、単なる仲間内の相互認証会として無秩序な状態にすぐ陥る潜在的な要素を抱え込んでいる。日本においては、研究の場であり相互評価の場である「学会」は、このような潜在的な脆弱性を有しているにもかかわらず、規制が設けられていない。これは権力との一定の距離を置く必要のある学術の分野に権力が影響を行使しないためのものと考えられるが、それだからこそ、学術を推進する「科学者」に、非常に高い倫理性を要求することで秩序を保とうとしているものと考えられる。また、被災地などをはじめ人を対象とする研究に対する倫理性もこのところ急激な高まりを見せている。

翻って20年余の歴史を有する本学会では、この問題について学会員とともに真剣に取り組む機会をこれまで逸していた。とりわけ、学際的で大学関係者・実務家が入り混じる本学会では、研究倫理に対する規範意識が共有化されにくい状況にあったといえる。

一般的に規範が共有化されていない組織においては、アノミー状態が生じやすいことが知られており、そのことは個々の学会員を非常に危険な状態にさらすことになる。

そこで、本大会は日本で研究公正対策が最も進んでいる大学の一つである東北大学を主催校とすることから、東北大学研究推進部研究コンプライアンス推進室関係者をお招きし、本学会理事とともに研究公正について規範の共有化を図るための方策を議論していく。

オーガナイザー 日本NPO学会理事 出口正之（国立民族学博物館）

報告者 東北大学研究推進部研究コンプライアンス推進室より

佐々木 孝彦

東北大学総長特別補佐（研究倫理担当）

東北大学金属材料研究所教授

報告者 日本NPO学会理事 大久保朝江（認定NPO法人杜の伝言板ゆるる）

報告者 日本NPO学会理事 青尾 謙（岡山大学）

以上